

7 月号

ひだまり

わかくさこども園



2022.6.29



ごめんね と あじさい

(2022.6.23)

「ごっん！」

お部屋で遊んでいた、ふじのSくんとIちゃんの頭がぶつかった。
大きな怪我にはならなかったけど、二人とも痛そう。

そのあと、気を取り直して園庭に遊びに出たIちゃん。
園庭の隅に咲いていたあじさいの花を一つだけ、大事そうに摘んで戻ってきた。
Iちゃんが戻ってくると、すこし気まずそうに近づいてくるSくん。

Sくん 「わざとじゃなかったけど、さっきはごめんね」

Iちゃん 「うん、いいよ。じゃあこれあげる」

IちゃんがあじさいをSくんに差し出した。
実はふたりとも、気にしていたみたいです。



7月の予定

5日 (火) 避難訓練

15日 (金) 終業の日

【幼稚園】

12 (火) ~ 15日 (金) 午前保育

※7月16日~8月28日 夏休み

なんでもない日の、子どもたちのこと

わかくさの今とこれから。子どもたちのことを思いつくまに。

園長 習田 和正



梅雨ですね

6月はジメジメの梅雨でした。開園したばかりのころ、子どももおとなもスッテンコロリンだった園舎の真新しい床も、時間の経過とともに程よく落ち着き、転ぶことも少なくなりました。

園にだんだんと慣れ、落ち着いてきたのは子どもたちも同じ。少しずつ生活の見通しがついてきたようです。みんなで集まって話をする時間、お着替えの時間、給食の時間、自由に遊ぶことができる時間など、次は何をする時間なのかを自分で理解し、動ける子も増えてきています。

ですが、そう簡単にいかないのも集団生活。自分がやりたいこととは別に、“守らなければいけないルール”があるからです。友だちが遊んでいるおもちゃを勝手に取ってはいけないし、物を壊したり、わざとではなくても誰かを傷つけたなら「ごめんなさい」を言わなければいけません。

そんな時、悔しくて、素直になれなくて、泣く泣く先生に手を引かれていく子どももいますが、それは「自由はルールを守った上にある」という社会の原則を、子どもなりに学んでいる場面でもあります。友だちや先生と一緒にいる楽しさだけでなく、その大変さも含めた一つひとつを味わいながら、子どもたちは毎日を過ごしています。

とはいえ、梅雨の時期は気圧が低い日が多くなるそう。子どももおとなもなんとなく気分が乗らない日があるのは、そのせいもあるのかもしれませんが。そんな時は無理をしないことも大事なので、「休み休みゆっくり進む」でいいと思います。

「しばふ」ってなあに？

わかくさこども園には子どもたちも遊びで使う「みんなのひろば」という名前の広場があり、そこには芝生が植えてあります。最近気づいたのですが、芝生を「ただの草」だと思っている子がとても多い。公園などで見かけることはあっても、それが「芝生」だと改めて認識する機会は、あまりないのかもしれませんが。

ちょうどそのころ、園庭に乳児の子どもたちが遊ぶ芝生の築山を作ろうと考えていたところだったので、これは芝生を知るチャンスだと思い、芝貼りの手伝いを年中・年長さんをお願いしてみました。

まずはお部屋で、子どもたちに「しばふってなあに？」と聞くことから始めます。芝生という名前は知らなくても、「ふわふわ」「ちくちく」といった感触や、「寝転がれる」「気持ちいい」など、なんとなくのイメージを持っている子もいます。





芝生のイメージをみんなで出し合います



貼り方はそれぞれなのが面白い



貼ったあとの水やりも自分たちで



次は、実際に触ってみる。想像より「ちくちく」が強かったり、色が黄色っぽかったりと、新しい発見がありました。



そんな出会いを経て、芝貼りの日を迎えます。当日、教えに来てくれた園庭の職人さんは“芝生のプロ”ですから、子どもたちの好奇心も止まりません。「どうして根っこは硬いの?」「芝生が四角なのはなんで?」「茶色い芝生は死んでるの?」。職人さんも、子どもたちの質問に、一つひとつ丁寧に答えてくれました。



そしていよいよ芝貼り本番です。子どもたちは細かいことは気にせず、思い思いに芝を貼っていきます。隙間がないよう几帳面に並べる子、パズルのように芝の組み合わせを楽しむ子、友達と並べた数を競う子。貼り方の中に、それぞれのこだわりや楽しみ方が見えます。年中・年長さんたちの力で、約200平米も用意していた芝はあっという間になくなりました。少しいびつな形かもしれませんが、自分たちが苦勞して貼った芝生の築山を前に、達成感もひとしおです。



何か一つのことに1から出会っていく経験は、自分探しと似ています。見て、触って、やってみることで、自分の心が何によって動かされるのかに気づいていく。それがやがて、自分だけの「好き」や「やりたい」の気持ちに育っていくのだと思います。

「自分らしさ」という言葉にも言い換えられそうですが、それは、わかくさが大切にしていきたいと思っている保育観の一つでもあります。





お知らせ



🔍 連載コラム

こども園たんけんたい



第4回「みんなのひろば」

季節の植栽がぴよこぴよこ顔を出す園舎北の芝生のひろば。思わず寝転がりたくなるような、癒しの空間です。

「みんなの」ひろばなので、使う人や使い方に決まりはありません。園としてはなくても良い“余白”の場所なのですが、いざ使ってみると子どもにもおとなにも大人気。園庭とは違った雰囲気なので、子どもたちが気分を変えて遊ぶには最適ですし、ちょっとしたピクニックも気持ちが良いです。園のイベントや地域の子育て支援の場としても活躍しそうです。

“余白”は、なくても困らないけど、あるとワクワクするし、夢が広がります。このひろばが、これからどんな可能性を見せてくれるのか、楽しみです。

余談ですが、みんなのひろばは成田線がよく見える人気スポットでもあります。ひろばからはよく、子どもたちの黄色い声が聞こえてきます。

保健だより

暑い日が多くなり、熱中症が心配な時期となりました。熱中症になると、めまいや頭痛、吐き気、ひどい場合は命の危険を伴うこともあります。子どもは体温の調節機能が未熟で、体調が悪くなっても的確に症状を伝えることができません。おとながよく観察し、体調の変化に早めに気がついてあげることが大切です。

園では日々、環境省から出ているその日の暑さ指数を考慮しながら、外遊びの時間や場所を考えています。ご家庭でもこまめな休憩や水分補給を心がけましょう。

○熱中症かなと思ったら

- ・屋内では空調機器を使って室温を下げ、戸外では日陰や風通しの良い場所に移動しましょう。
- ・衣類をゆるめ、保冷剤などで大きな血管（わきの下、足の付け根、首まわり）を冷やします。
- ・スポーツドリンクや経口補水液など、塩分の入った水分を補給しましょう。
- ・視線が合わない、ぐったりして声かけに応じない場合は、すぐに救急車を要請します。

○水遊びが始まりました

園では子どもの体調を把握しながら水遊びをします。引き続きコドモンで、体調や水遊びの可否の入力をお願いします。ご家庭でも水遊びは、体調を考え、低体温にならないようこまめに休憩をとりましょう。また、溺れる可能性を考え、お子さまから必ず目を離さないことも大切です。

○感染症の流行の時期です

夏は感染力の強いヘルパンギーナ、手足口病、流行性角結膜炎、プール熱等が流行る季節です。発熱やのどの痛み、目の充血、水疱等があれば必ず受診をして医師の診断を受けてください。園での集団感染につながらないように、ご協力をお願いします。

○歯科検診が終了しました

虫歯等、異常が見られた家庭には個別にお知らせします。夏休み中など、時間がある時に受診し、早めに治療しましょう。



看護師・藤井 佑季



7月 保健の予定

12日（火）	ふじ・みそら	身体測定
13日（水）	ももはな	身体測定
14日（木）	こむぎ・ゆずは	身体測定

わかくさこども園

wakakusa kodomoen